

信時 潔 作 交声曲『海道東征』の感動を再び

—東京フィルに繋がる「人の縁」数々—

元東京電力株式会社 取締役社長
南 直哉



東京フィルのゆかりの方々に、クラシック音楽に魅了されたきっかけや音楽生活について綴っていただく本連載。第6回は、東京電力株式会社にて取締役社長を務められ、2001年からは東京フィルの評議員としてご助力くださっている南 直哉様にご寄稿いただきました。

私は関西の僻村^{へきそん}で次男に生まれ開戦翌年に当時の国民学校に入学、新制高校卒業までの18年間を故郷で過ごしたが、その間数多くの「人の縁と幸運」に恵まれて東京の大学で学び職を得てそのまま東京近辺に腰を据えている八十路半ば過ぎの老耄^{ろうもう}である。

私が本格的なクラシック音楽に接したのは、大学卒業後東京電力に入社（これも“人の縁”のお陰）して新入社員初職場の神奈川支店（横浜市）に配属され、『彼』（一年先輩だが都内事業所一年の後二つ目の事業所へ私と同じ日付で転勤）と仕事の席を隣り合わせたお陰である。彼とはお互い非常に気が通じ合い平日は勿論週末・休日には彼の自宅（東京都）に入り浸るほどお世話になった。彼の個室（大きな洋間）には外国製のグランドピアノがありベートーヴェンはじめピアノ・ソナタ等の名曲の数々を堪能した。幼少の頃から専門家のレッスンを受けておられるプロはだしの腕前だった。そしてもう一つ特筆すべきなのは、彼のレコードの山から^{のぶとき きよし}信時 潔の大傑作^{かいどうとうせい}『海道東征』の古いSP盤を見付出したことである。初めて聴く約一時間の交声曲に感動した。このレコードは皇紀2600年奉祝演奏会の実況録音盤で、彼が児童合唱団の一員として参加した記念

盤とのこと。後日にやや歪み波打っていた何枚かのSP盤をテープに複写し届けて下さったので何回感動を繰り返したのか…懐かしい思い出。その『彼』もつい先年彼岸へ…。

この曲はその出自もあって戦後長く封印されていたが、2015年に東京藝術大学が「信時 潔 没後50周年記念演奏会」を新装なった同大学奏楽堂で同大学オーケストラ・合唱団等の出演で行ないライブ録音盤も販売されている。この翌年と記憶するが、大阪フィルが大阪で全曲演奏会（最後に“海ゆかば” 合唱付）があり、その翌年（2017年）4月には東京フィルに栗友会・杉並児童各合唱団が加わって東京芸術劇場で産経新聞社主催のもとに演奏された。（この時も“海ゆかば”付）。私はこの三つの演奏会とも友人家族を誘って拝聴している。

残念ながらその後暫く演奏会が途絶えている。日本では毎年末に“第九”演奏会が全国各地で開催されるのが常であるが、この交声曲『海道東征』も毎年は無理としても、せめて日本のどこかで定例的に楽しめたらと思う。主催者・後援者の協力を得て是非実現して欲しいと願っている。

因みに私と東京フィルの関係が生じたのも東京フィル前理事長の大賀典雄氏が確か経団連副会長の頃、即ち世紀交代の頃に、車中から私に東京フィルを手伝って欲しい旨の電話を下されたからである。「人の縁」の有難さに感謝している。

私は東電在職中「TEPCO 一万人コンサート」を毎年主催するのも楽しみだった。5,000人の聴衆の前で受持区域内各地域を代表するママさんコーラス等の出演者が5,000人（合わせて一万人コンサート。会場は武道館に定着）前半期はボニージャックス西脇久夫さん、後半期はなかにし礼さんが「世界劇」と称し主導されたが、そのお二人も今は亡^ない。18年間続いたが東日本大震災に伴う原子力事故後は中断したままである。各地域のママさんコーラスの晴れの場最終本舞台を復活提供するためにも、新たな主催者が現れて欲しいと切望している。

南 直哉（みなみ・のぶや）

1935年三重県伊賀上野生まれ。1958年東京大学法学部卒業。東京電力株式会社入社。1999年取締役社長。2002年退任。2004年より一般財団法人地球産業文化研究所理事長（現任）。2001（平成13）年より公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団評議員。